

教材教具名 ルーレット

教科(算数)



教材教具の概略(ねらいと使い方) 発達段階や教科上のどの課題で、どのように使ったか等

1 ねらい

- ・ 数の概念を理解させる。
- ・ 多い少ないを理解させる。

2 発達段階

- ・ 1～20程度を数唱できる。数に興味をもっている。

3 使い方

- ・ 一人ずつルーレットを回し、自分の矢印のところに止まった数字の数だけ、スーパーボールを筒のなかに入れていく。多くスーパーボールの獲得した人が勝ち。
- ・ すべて同じ大きさのスーパーボールなので、誰が一番多いか一目でわかる。

児童生徒の反応や教材の評価 使ってみての感想・改良発展のアイデア等(次に利用する方のために)

- ・ 簡単なルール of ルーレットゲームを楽しむなかで、数字を読む、数を数える多い少ないを考えるなどに取り組むことができた。
- ・ 数を数えながらスーパーボールを筒に入れることで、数の概念を理解できるようになってきた。
- ・ スーパーボールの色が鮮やかだったり、キャラクターが描いてあったりしたので、児童によってはたくさんスーパーボールを獲得したくて意欲的に取り組めた。
- ・ 筒のなかを見るだけでは判断しにくかったので、同じ数の色の付いた円をホワイトボードに並べてはってわかりやすいように提示した。